

# みどりの東北

発行日/平成21年11月  
発行/東北森林管理局  
秋田市中通五丁目9-16  
TEL.018(836)2192

ホームページ <http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/>



## 国有林野事業の現場を視察していただきました (詳細は2頁で紹介)

(平成21年度国有林モニター現地見学会を秋田市の「仁別国民の森」で開催 写真は景観に配慮した治山事業の説明風景)

## トピック

### 特集

「国有林モニター現地見学会を実施」  
企画調整室

### 美しい森林づくり

「森や木とのふれあいで  
森林を身近なものに」  
山形森林管理署最上支署

### 我が署の隠れた名所

岩手南部森林管理署遠野支署  
「ヒカリゴケ」



参加したモニター26名の皆さんとスタッフ一同



東北森林管理局では、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

特集コーナー

# 「仁別国民の森」において 国有林モニター現地見学会を開催

## 企画調整室



東北森林管理局では、国民の意見を反映した国民のための森林づくりの一環として、国有林モニター制度を設け、福島県を除く東北五県にお住まいの四十八名の方に国有林モニターとして、東北森林管理局が行う施策について、モニター会議やアンケートなどを通じ、ご意見をお伺いしています。

こうした取組の一環として、十一月六日、秋田県秋田市郊外の「仁別国民の森」（務沢国有林）において、国有林の事業内容の理解を通じ、今後のモニター活動に活かしていただくため、今年度から新たに現地見学会を行い、二十六名のモニターの皆様にご参加いただきました。

現地見学では午前中に、「仁別国民の森」の中核である仁別森林博物館において「仁別森林博物館



「案内人会」沓沢氏による仁別博物館の紹介

ボランティア案内人会」の皆様にご協力いただきながら、博物館の概要、周辺の動植物、天然秋田スギの成立過程や木材利用の歴史などについて説明を行いました。また、森林鉄道など様々な展示をご覧いただきました。

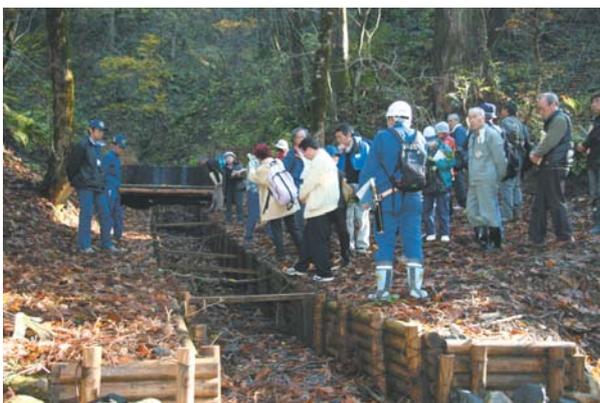
施業の効果や列状間伐の取組状況などについて質問がされました。



秋田署柳谷業務第二課長による森林整備事業についての説明

また、午後からは、博物館周辺の国有林において、森林整備事業や治山事業を実施した現地を見学していただきました。

森林整備事業については、平成十四、十五年に猛禽類に配慮した施業（山の手入れ）を行った箇所において、森林整備のサイクル、間伐の実施方法や現地の実施状況などについて説明を行い、モニターの方からは、猛禽類に配慮した



秋田署鈴木治山課長による治山事業についての説明

治山事業については、平成十九年度に施工した、間伐材を残置型枠として活用した谷止工について、事業実施前の被害状況、施工内容や治山事業の目的などについて、説明を行いました。モニターの方々からは、間伐材の型枠の耐用年数や砂防事業との違いなどについて質問がされました。

このほか、仁別森林鉄道の務沢駅跡地、めおと杉（森の巨人たち百選）、ウツドチップ舗装化や協働の森林づくりなどについても見学いただき、事業見学とあわせて、天然秋田スギを満喫していただきました。

# 最優秀賞は秋田市四ツ小屋小学校 の木場さくらさんが受賞

「仁別の天然秋田スギ絵画作品表彰式」

東北森林管理局では、仁別森林博物館企画展として、天然秋田スギ展を開催し、この企画の一環として小学生を対象に仁別森林博物館及び博物館周辺の天然秋田スギの絵画を九月三十日まで募集したところ、地元秋田市はもちろん、遠くはさいたま市からの応募もあり、全部で八名の応募がありました。厳正な審査の結果、秋田市四ツ小屋小学校二年生の木場さくらさんが最優秀賞を受賞されました。



最優秀賞を受賞した作品

この絵は、仁別森林博物館にほど近い所にある、林野庁が指定した巨樹巨木百選にも選ばれている「めおと杉」を描いた作品で、めおと杉と子供たちがたわむれる風景が描かれており、木と人とのふ

れあいを感じさせる作品でした。表彰式は十月二十三日局長室で行われ、古久保局長から木場さくらさんへ最優秀賞の賞状と記念品が贈られました。この他に優秀作品として、さいたま市の小林菜さんと秋田市の佐藤涼摩さんがそれぞれ受賞しました。



局長室での表彰式

なお、応募された全作品は、十一月三日まで仁別森林博物館で展示、また東北森林管理局ホームページでも紹介しております。



仁別森林博物館での展示風景

東北森林管理局では一昨年、小学生を対象とした教本「東北の森林と遊ぼう」(カラ一十二頁)を管内(福島県を



仙北谷指導普及課補佐による講義

地球規模での環境問題が叫ばれている中、森林林業における関心も高まっており、小中学校での社会科等の授業でも森林環境教育への取組が活発になっております。今回、秋田大学教育学部附属小学校では、「木の国秋田では、森林がどのように育てられ、守られているのだろうか」と題し、十一月六日に開催された、東北社会科研究会秋田大会において学習することになり、事前教育として東北森林管理局へゲストティーチャーとしての派遣依頼があり、十月二十七日に指導普及課から仙北谷課長補佐と見市保護林係長がゲストティーチャーとして講義を行いました。

他にも「手入れの道具はどんなものか」「伐採はどうやって行われるのか」「切った木材はどうやって運ぶのか」など写真や絵を描いて説明する場面もあり、生徒も真剣に耳を傾けていました。講義後の担任の先生から、現場を見ながらの学習も是非やってみたいとの要望が出され、有意義な講義となりました。



生徒からは具体的な質問が

## 小学生を対象に 秋田の森林林業について解く

「秋田大学教育学部附属小学校でゲストティーチャーとして講義」

除く東北五県)の小学校宛てに配布したところであり、当該小学校においてもこの教本を使用し、学習に取り組んでおりました。当日は五年生三十三名の教室に

おいて各生徒から、秋田県における森林の状況や取組、林業従事者数の変化や今後の展望や課題等具体的な質問があり、教壇に立った職員が丁寧に分かりやすく答えました。

# 森や木とのふれあいで 森林を身近なものに

山形森林管理署最上支署

山形県最上地方は森林率が八割、その四分の三が国有林で、盆地を取り囲むように約十一万ヘクタールの広大な国有林が広がっています。県内有数の林業地帯となっており、一方で、巨木が数多く存在しているほかブナの大木もあり、自然と親しむ場が多くあります。このように恵まれた環境を活かし、森林や木とのふれあいの機会を提供しています。

**一 遊々の森等での活動**  
児童・生徒等が自然とふれあう

場として国有林をフィールド提供する「遊々の森」を三箇所設定しています。①真室川町の甌山探求会が活動する「塩根川学校の森」は、今年度協定期間を更新し、新たに、高原湿原となっている荒沼周辺の国有林を活動フィールドとして追加しました。七月には町立及位中学校の生徒が湿原の保全活動に参加し、ヨシ刈りを行いました。②戸沢村の神田妙見塾が活動する「内林自然の森」では、村立神田小学校児童の自然体験の場として利用されており、五月に全児童が参加した春山探索を行いました。③



ターザン現れる？（内林自然の森）

舟形町のブナの実21が活動する「ふながた薬師の森」では、五月に町立堀内小学校の全児童が遠足に出かけ、ブナ林の散策などを行っています。また、団体等が森林体験活動を行う場を提供する「ふれあいの森」を二箇所設定しており、下刈などの活動が行われています。

## 二 林業体験

舟形町教育委員会と連携して、昨年度から国有林内で舟形小学校の児童が林業体験をしています。昨年度は植付、今年度はその箇所を下刈し、不慣れた作業も署職員の手指導で安全に楽しく実施してもらいました。



下刈りに奮闘中（林業体験）

## 三 森林ガイド事業

毎年六月に鮭川村が開催する「まぼろしの滝ツアー」にガイド役として職員が参加しています。このコースは「与蔵沼風景林」に指定している国有林で、治山事業（生活環境保全林整備事業）で整備した歩道等があります。新緑のブナ林を散策するほか、山菜シーズでもあり、帰りのリュックが一杯の参加者もおられます。



女甌山の大カツラ（ガイド事業）

ます。秋には支署主催のガイド事業を実施しており、今年度は十月二十四日に「最上の巨木めぐり」として、真室川町内国有林にある、森の巨人たち百選にも選ばれた「滝の沢の一本杉」、「女甌山の大カツラ」と、戸沢村の天然杉群「幻想の森」を散策しました。紅葉時期も重なり、県内各地から参加がありました。

## 四 木とのふれあい

今年度は、真室川町の「子ども体験天国えんにち」、山形県の一大会展「山形県林業まつり」に参加し、巣箱作成の無料体験を行いました。子どもだけでなく、付き添われたご家族が一生懸命になる姿もあり、木とふれあう良い体験の場となっていると思います。

今後、自然とふれあう機会を通じて、住民の方々に森や木の素晴らしさを実感していただき、さらに森林・木を身近に感じていただけたら有難いと考えています。



どんな鳥が入るかな

【森のお話】  
…コラム…

東北が北限！絶滅危惧種

— ユビソヤナギ、*Salix hukaoana* —

森林総合研究所東北支所 地域研究監 新山 馨  
森林総合研究所 生態遺伝研究室 菊地 賢

ユビソヤナギは、一九七二年に群馬県水上町（現みなかみ町）を流れる利根川上流域の支流・湯檜曾川の岸辺で深尾重光氏に発見され、ユビソヤナギ、*Salix hukaoana*と命名されました。日本のような科学研究が進んだ国で、高等植物の新種が見つかることは大変珍しいことです。ヤナギ科植物は雌雄異株で、雄花と雌花は別々の個体に咲きます。しかも花の時期と葉が展開する時期がずれているので、花と葉を同時に見ることが難しい植物です。また葉や花は近縁種の間でよく似ているため、分類・同定が難しい植物といわれてきました。ユビソヤナギは、一緒に生えているオノエヤナギと似ているので発見が遅れたとも言われています

（写真1）。しかし、最近の研究では、オノエヤナギではなく、北海道に分布するエゾヤナギに近縁であることが判つてきました。他のヤナギより早く早春に開花すること、雄花の花糸が合着して一本に見えること（写真2）、樹皮をむくと内樹皮が黄色を帯びていること（写真3）、葉の基部に托葉が見られることなどがユビソヤナギの特徴です。一方、ここ二十年ほどの間にユビソヤナギが東北各地で発見されています。例え



写真1 ユビソヤナギの葉



写真2 ユビソヤナギの雄花

ば一九八三年に宮城県の鳴瀬川流域、一九八五年に同県江合川流域（竹原・内藤一九八六）、さらに一九九三年に岩手県の北上川水系和賀川流域（竹原一九九五）、福島県の只見川流域（鈴木・菊地二〇〇六）、秋田県の雄物川水系玉川流域、山形県では最上川水系立谷沢川流域および銅山川流域、赤川水系大鳥川流域、荒川水系荒川流域



写真3 黄色い内樹皮



写真4 ユビソヤナギの生息地（只見川流域）

（写真撮影はすべて菊地賢）

などです。ユビソヤナギは川の下流部ではなく、上流部の山間地や少し広い盆地に流れ出た河川のやや礫質の河原に分布しているようです（写真4）。このような川の上流部はシロヤナギやオノエヤナギが優占する生育環境で、これら二種と混じって生えていることが多いようです。みなさんの住む町の近くの川にユビソヤナギはありませんか？ぜひ一度、川辺のヤナギも観察してみてください。新しい北限が見つかるかも知れません。



指導普及課

アサヒビール社員らが  
除伐作業等を体験



作業には子供の姿も

東北森林管理局とアサヒビール秋田支社、仁別森林博物館案内人は、昨年八月に締結した協定に基づき森林保全活動の一環として十月十七日に仁別国民の森で除伐



作業を終え全員で記念写真

作業を実施しました。

当日はアサヒビール秋田支社の社員や家族、仁別森林博物館案内人、局職員ら二十五名が午前十時に仁別国民の森に集合。

開会式は、高橋指導普及課長の「絶好の天候の中、昨年に引き続き、参加者全員の力を合わせて心地よい汗を流しましょう。」という挨拶で始まり、アサヒビールの田淵支社長から「CSR活動の一環として仁別国民の森のフィールドを活用した環境保全活動に今後とも積極的に取り組んでいきたい。」と挨拶を頂いた後、指導普及

及課の職員が除伐鎌の使い方や安全上の留意事項の説明を行い、さつそく作業を開始しました。

現地は平成十五年に一般公募による記念植樹が実施された箇所（約〇・〇五ha）で、ヤマボウシやナナカマド等の植栽木のほか、植栽後侵入したクリやミズナラ等を加えた保残木にあらかじめテープ表示が施されており、参加者はそれらを傷つけないように注意しながら作業を行いました。最初は元気の良かった参加者も時間の経過に伴い、次第に息があがった様子でしたが、しばしば休憩を取りながら、和気あいあいとした雰囲気の中、一時間余りで作業を終りました。

昼食後、仁別森林博物館案内人がアサヒビールの社員らを天然秋田スギ林へ案内。約一時間あまり、天然秋田スギ林での森林浴を楽しみました。一行からは「やはり天然秋田スギ林は迫力がある」「ストレス発散には森林浴が最高」などの声が聞かれました。

その後、木製花台の製作なども楽しみ、今後とも綿密に連携しながら、仁別国民の森での環境保全活動等に取り組んでいくことを確認し、解散しました。

仙台森林管理署

「植樹のつどい」で  
「コンテナ苗を植樹

十月一日（木）、仙台市太白区の馬場岳山国有林において、仙台市立秋保小学校の小学五・六年生（十四名）ほか総勢百十名の参加により、「植樹のつどい」を開催しました。

今年度の「植樹のつどい」は、初めての試みとして、面積〇・四九haにスギのコンテナ苗の秋植えを実施しました。コンテナ苗は、樹高の割に、軽く小さいので、運搬や植栽が簡単であり、また、根鉢付きの苗なので、植え付け可能な期間が長い等の特徴があります。

当日は、曇りで時々小雨模様の天気でしたが、参加した小学生は大人の指導を受けながら、使い慣



コンテナ苗



署職員の指導を受け一生懸命植えました

れない唐鍬を用いて最後まで一生懸命植付作業を行っていました。コンテナ苗ということ、思ったより植付作業が順調に進み、参加者のがんばりもあり、時間内に予定していた一、四七〇本のスギ苗木の植え付けを終えることができました。最後に記念標柱の埋設と記念写真を撮影し、「植樹のつどい」は無事終了しました。

午後からは、場所を二口野営場付近に移し、約一時間の森林教室を実施しました。当署職員により、周辺の植物について解説するとともに、資料を使って「森林の働き」などについて講話を行いました。

米代西部森林管理署管内の「仁鮎水沢スギ植物群落保護林」において、ボランティアの方々を主体とした木道修理が行われました。この保護林は旧二ツ井町の田代沢国有林にあり、林内には日本一の天然秋田スギである、「きみまち杉」（樹高五十八m、胸高直径一六四cm）をはじめ、樹高五十mを

## 日本一の天然秋田スギへ通じる歩道の修理を実施

米代西部森林管理署

ミズナラやイタヤカエデの実物の種子を見せ、葉の形や種子の散布方法などの特徴を解説したところ、特に種子の飛び方に目を輝かせながら関心を示していました。

また、森林が水源かん養機能や二酸化炭素を吸収する公益的な働きをしていること、森林を育てるための作業の流れ等の解説も真剣に聞き入っていました。

このような行事を通じ、子供たちが自然環境や植物、林業などに関心を持つきっかけになってくれればと思います、一日を終えました。

米代西部森林管理署管内の「仁鮎水沢スギ植物群落保護林」において、ボランティアの方々を主体とした木道修理が行われました。この保護林は旧二ツ井町の田代沢国有林にあり、林内には日本一の天然秋田スギである、「きみまち杉」（樹高五十八m、胸高直径一六四cm）をはじめ、樹高五十mを

超える天然秋田スギが林立し、林齢二五〇年に至った現在でも成長を続けています。

林内には、歩道が整備されており、一周を約三十分で散策できるようになっていますが、作られてから年数が経過したこと、うっそうとした林内のため湿気が多く所々で木道の痛みが見られたことから、今回板の張り替えと、滑り止めの設置を行うこととしました。

当日は八名のボランティアの方々に参加して下さい、全線に渡り作業を行いました。歩道は前日までの雨のせいもあり、普段よりいっそう滑りやすくなっていたので、入り口から滑り止めの板を打ち付け奥へと進んでいきました。

特に登りの歩道に敷いた木道は敷板そのものの痛みが激しいようでした。板の張り替えではボランティアの方々の、日曜大工で磨いた腕前が余すところ無く発揮され、瞬く間に修理されていきました。

二時間ほどの修理で持ち込んだ資材は使い切ってしまったが、歩道脇の東屋に保管してあった資材をその場で加工して修理の必要な箇所はすべて終わらせることができました。

ボランティアの方から、「最近

超える天然秋田スギが林立し、林齢二五〇年に至った現在でも成長を続けています。

林内には、歩道が整備されており、一周を約三十分で散策できるようになっていますが、作られてから年数が経過したこと、うっそうとした林内のため湿気が多く所々で木道の痛みが見られたことから、今回板の張り替えと、滑り止めの設置を行うこととしました。

当日は八名のボランティアの方々に参加して下さい、全線に渡り作業を行いました。歩道は前日までの雨のせいもあり、普段よりいっそう滑りやすくなっていたので、入り口から滑り止めの板を打ち付け奥へと進んでいきました。

特に登りの歩道に敷いた木道は敷板そのものの痛みが激しいようでした。板の張り替えではボランティアの方々の、日曜大工で磨いた腕前が余すところ無く発揮され、瞬く間に修理されていきました。

二時間ほどの修理で持ち込んだ資材は使い切ってしまったが、歩道脇の東屋に保管してあった資材をその場で加工して修理の必要な箇所はすべて終わらせることができました。

ボランティアの方から、「最近

は土日祝日の高速割引を利用して高速道路終点の二ツ井白神ICまで来る方が、日本一のスギを見学するなど入込者も増えているので、今後にも必要に応じて修理していかなくてはならない」と心強い話も出されて当日の作業を終わりました。

十月十九日～二十日、本年度の林政記者クラブ現地説明会を実施しました。

この説明会は、毎年国有林野の管理経営について理解を深めていただくことを目的として開催しており、今年も昨年六月十四日に発

## 東北森林管理局林政記者クラブ現地説明会を開催



ボランティアによる歩道整備

生じた岩手・宮城内陸地震の復旧対策と宮城県栗原市内の製材工場で行いました。

初日は、栗原市花山地区において、災害発生メカニズム等について江坂宮城山地災害復旧対策室長から説明を受けつつ、山腹工事中に崩落で三名の尊い命が奪われた箇所、崩れた土砂が河川を越え、対岸の国道も飲み込んだ箇所を見学し、自然災害の猛威を実感されてきました。治山工事が完成した箇所では、記者の「周囲のような元の山に戻るのはいつ頃か」の質問に、今ようやく草が生え始めてきており、何十年もかかるとの答えに、一度傷ついた山が自然に戻るまでの長さを感じられた様子でした。



民有林直轄治山事業箇所を見学

翌日は、緊急工事が進んでいる荒砥沢地すべり箇所へ移動、ここは今回の地震で最大の山地災害発生箇所で、長さ千三百m、幅九百mもの斜面が最大三百mも移動しました。記者一同は、まず移動した斜面上を歩き、いたる所で陥没や滑落している道路を見て「地震発生時に車や歩行者がいなくて本当によかった」との声がありました。



破壊された市道など大規模地すべり地を見学

この地すべりにより出現した特異な地形・景観については、防災教育の場としての活用等が検討されているとの説明がありました。午後からは、被災地の近くにある栗駒木材(株)を見学。同社社長から、工務店への直接販売や継ぎ

手・仕口加工場所の提供など、厳しい木材業界にあっての100%国産材利用への取組を聞きました。製材工場では、伐採・搬出等の残材や丸太加工時に発生する端材等を有効活用して燻煙乾燥や木材ペレット製造の状況等を見学し、全日程を終えました。



栗駒木材(株)で燻煙乾燥施設等を見学

～森の仲間の裏話 8～

# へえーそうなんだ

# カモシカ

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンター所長 青山 一郎



山々が紅葉から雪化粧に変わる季節。葉を落とした森でカモシカに出会いました。衆知のとおりウシの近縁で、反芻のためあまり動かさず口だけモゴモゴしているため、瞑想してるようで、なにかと擬人化されます。

仙人とか哲人に喩えられる思慮深げな風貌のポイントは、涙のような泣きぼくろ。この眼下腺、においを分泌する器官で、なわばりなど自己主張のためのもの。木の幹や枝にこすりつける動作が見られます。

かつて植栽木の食害が問題となった頃は、山腹の伐開地にポツポツ見られたものですが、新植地の減少とともに、出会う機会も減ったように感じます。

厳冬前の日だまりで、彼と一緒に物思いにふけりました。



目の下の泣きぼくろは眼下腺





# 国有林PRのひとつになれば

秋田森林管理署

田沢湖森林事務所 古郡 宏

私の勤務する秋田森林管理署 田沢湖森林事務所は秋田県内陸南部に位置する仙北市田沢湖田沢地区にあります。当事務所の管轄面積は林班数12、面積5,225ha、現況はブナ・ナラ等を主とする天然林及びスギ人工林です。

当事務所管内は、一部十和田八幡平国立公園内で、秘湯として全国的にも有名な鶴の湯温泉及び乳頭温泉郷があり、その殆どの温泉施設（孫六・大釜・蟹場・妙の湯）の土地について貸付契約を行っているため、周辺国有林の風倒被害及び温泉関連工事等



秘湯鶴の湯温泉

については神経を使いますが、現場に行く途中、日本一深い田沢湖（水深423m）や秋田の秀峰駒ヶ岳（標高1,637m）の四季折々の景色を眺めることができ、ホッと一息つけるところでもあります。



秀峰駒ヶ岳（1,637m）

また、管内を八幡平・玉川温泉に向かう一本道の国道341号線が走っているため、全国からの観光客が多く、先日は、林道を8kmほど入ったところで、外国人カップル（スイス人）が歩いているのを見つけました。この道50年の秋田弁が通じず、身振り手振りの悪戦苦闘の末、宿のパフレットを頼りに乳頭温泉郷に向かっていることがわかりましたが、それが無謀であることを理解させるのに、秋田弁や自分でもよくわからない英語を使って30分程時間がかかりました。更に、同じ方向に行くので車に乗るようにと伝えるのに20分ほどかかりましたが、無事宿に送り届けるこ

とができました。（遭難騒ぎにならなくて良かった）

私は国有林のPRについて考えていることがあります。当事務所管内には、昔から大きな岩を仏様に見立てた、東北のモアイ像こと御諸仏様が幾つかあります。昔は遠くから泊まりがけで参拝者が来たそうですが、今は来る人も少なくなってしまい歩道もわからなくなりつつあります。御諸仏様に行く途中にある、鳩峰神社は老朽化し、無惨な姿となっており残念に思っていたところ、分収造林組合の組合長（80歳代と高齢）と神社について話しをする機会があり、組合長も神社の現状に心を痛め、修理又は新築等ができないかと考えていたとのことでした。



歩道沿いにある湧き水池（内緒池）

また、昔のように参拝者が来るような方策がないかと考えていた時、私は神社の後方から御諸仏様へ向かう歩道を少し離れた天然林の中に湧き水池（内緒池）があることを思い出しました。周囲約85m、水深約2.5m透明度が高く、少し青みがかかって見え、この山中にこのような池があるのかという驚きがあります。組合長も池を知っており、その池に田沢地区内に生息し、絶滅が危惧されているトゲ魚（こころへんでトンギョと言います）を放して未来永劫生息させたいと考えているようです。

私は、御諸仏様や池が目されるようになれば、周辺にある国有林の天然広葉樹林（天スギ混ざり）のすばらしさについても体感してもらえるものと考えていますがいかがでしょうか？興味のある方は一度見学において下さい（コツソリ御案内しますよ）。



神社周りにある天然秋田スギ

# 我が署の 隠れた名所

岩手南部森林管理署遠野支署

## 「ヒカリゴケ」



シーズンには多くの登山者が訪れる薬師岳



岩陰で神秘的な輝きを見せるヒカリゴケ

### 交通アクセス

・東北自動車道盛岡南ICから国道396号線を遠野市方面へ向かい大迫町より主要地方道紫波川井線から小田越登山口まで車で1時間25分  
登山口から徒歩20分、薬師岳山頂までは90分

※登山シーズンには土・日曜日及び祝日において車両の乗り入れ規制がありますので、シャトルバスをご利用下さい。

### (見所の概要)

北上山地の最高峰の早池峰山(1,917m)と対峙する薬師岳(1644.9m)には、神秘的に輝くヒカリゴケを見ることができます。

ヒカリゴケとは、ヒカリゴケ科・ヒカリゴケ属に属する、1科1属1種の小さく原始的な貴重なコケ植物で、日本では北海道・本州の中部地方以北の冷涼な地域に分布し、洞窟や岩陰、倒木の陰などの暗く湿った環境に生育します。

ヒカリゴケは自発光しているのではなく、レンズ状の細胞からなる原糸体に僅かな光を反射することにより、金緑色(エメラルド色)に輝きます。

見頃は6月から9月頃にかけて薬師岳の中腹より森林帯の岩場の陰で見ることができ、多くの登山客がヒカリゴケを目当てに登山に訪れています。

来年は「遠野物語」発刊100周年を迎えます、遠野にお越しの際は神秘的な輝きを見に来てはいかがでしょうか。

「おでんせ遠野へ！」



お問い合わせ先

〒028-0515 岩手県遠野市東館町7-39

電話番号：050-3160-5925

FAX：0198-62-9628